

第4次丹波市男女共同参画計画策定ワークショップ

資料3

- 【目的】「第4次丹波市男女共同参画計画」を策定するにあたり、市民の方々から直接に幅広い意見をいただき、計画に反映することを目的に、市民ワークショップを開催しました。
- 【実施方法】グループワーク形式で意見交換を行いました。
- 【テーマ】①女性が（男性も）、自分らしく個性と能力を発揮できるようになるには？
②困難を抱えた女性を支援するには？
- 【日時】令和4年1月29日（土）第1回（午前の部）10時～12時、第2回（午後の部）13時30分～15時30分
（第1回、第2回とも同じ内容）
- 【参加人数】計21名

テーマ：女性が（男性も）、自分らしく個性と能力を発揮できるようになるには？

主な意見

- ・家庭の中ではアンコンシャス・バイアスが強い
- ・テレビの影響マイナスが多い ・家族の協力が必要
- ・法律や社会のルールが平等ではない（時代錯誤）
- ・教育の場が必要（リカレント教育）
- ・成功へつながるチャレンジの場を与えられていない
- ・能力を発揮するためのメンター、応援者が少ない
- ・管理職が女性になるとダイバーシティにつながる
- ・家での役割分担がかたよっている
- ・仕事の役割分担がかたよっている など

テーマ：困難を抱えた女性を支援するには？

主な意見

- ・Wケアトリプルケア、育児・介護負担
- ・誰にどこに相談すればよいかわからない
- ・困ってる人たちのための民間団体と行政、専門家の協働
- ・仲間が集い活動できる機会
- ・市民にむけたDVに関する研修会
- ・アウトリーチが必要（福祉）役所や社協から当事者へ
- ・行政の相談機関のPR
- ・“声掛け”を近所から始める など

今後の課題

- つながりが必要。気づいても「おかしいと言えない」という意識を改善していく。言える環境をつくるために交流をしていくことが大切。
- 困っている人は声を出せない。情報を繋ぎながら支援につなげていく、地域力が男女共同参画には必要。行政の支援や地域活動の中で繋がりを醸成していくことが必要。
- 違いを発見し、多様性を認め合うことで地域の中で支え合い、それぞれが活躍できるようにすることが大切。